

# 米国景気概況(2022年8月)

2022年8月2日

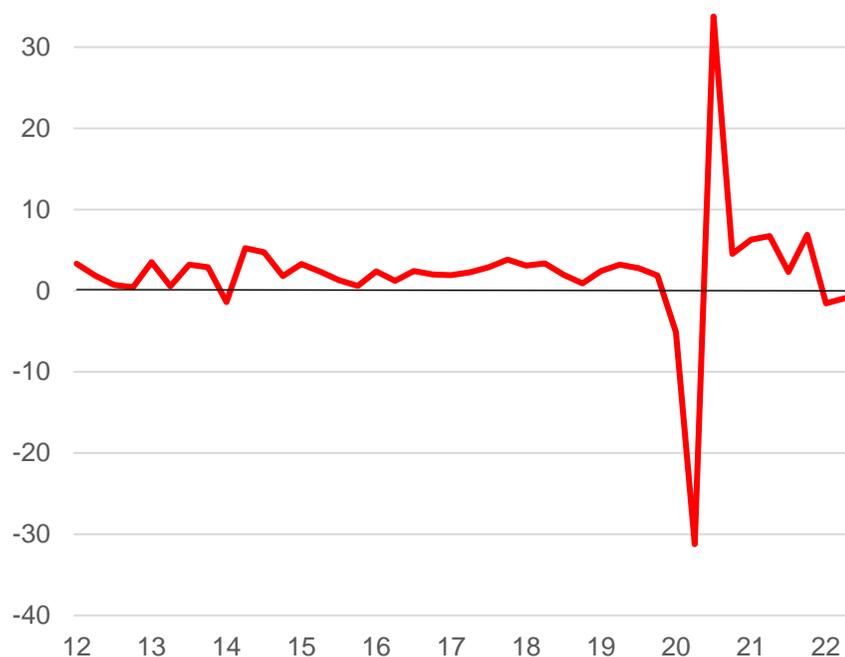
調査部 主任研究員 細尾 忠生

# 景気は減速

米国経済は、雇用など一部に底堅い動きもみられるものの、全体としては減速している。4-6月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比年率-0.9%と、2四半期でマイナス成長となった。個人消費が鈍化したほか、設備投資、住宅投資が減少した。また、ISM景況指数も低下傾向が鮮明になるなど、景気減速の動きが広がっている。先行き、インフレの影響による消費抑制や企業のコスト増、金利上昇による住宅投資、設備投資の抑制などにより、景気は一段と減速する見通しである。

## 実質GDP

(前期比年率、%)

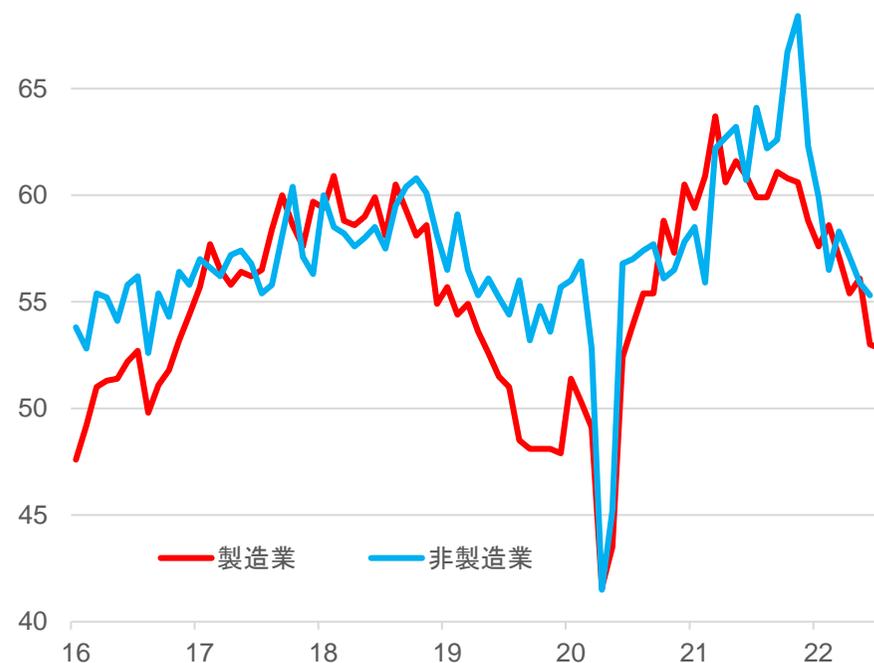


(出所)米商務省

(年、四半期)

## ISM景況指数

(%)



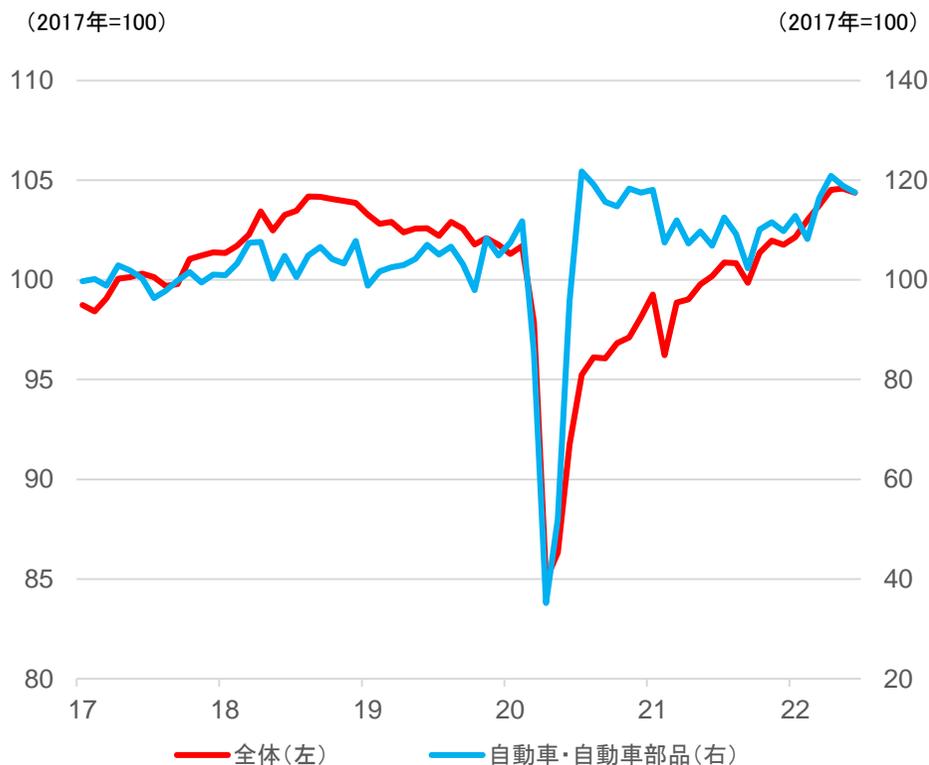
(出所)米供給管理協会

(年、月次)

# 生産は減少、雇用は増加

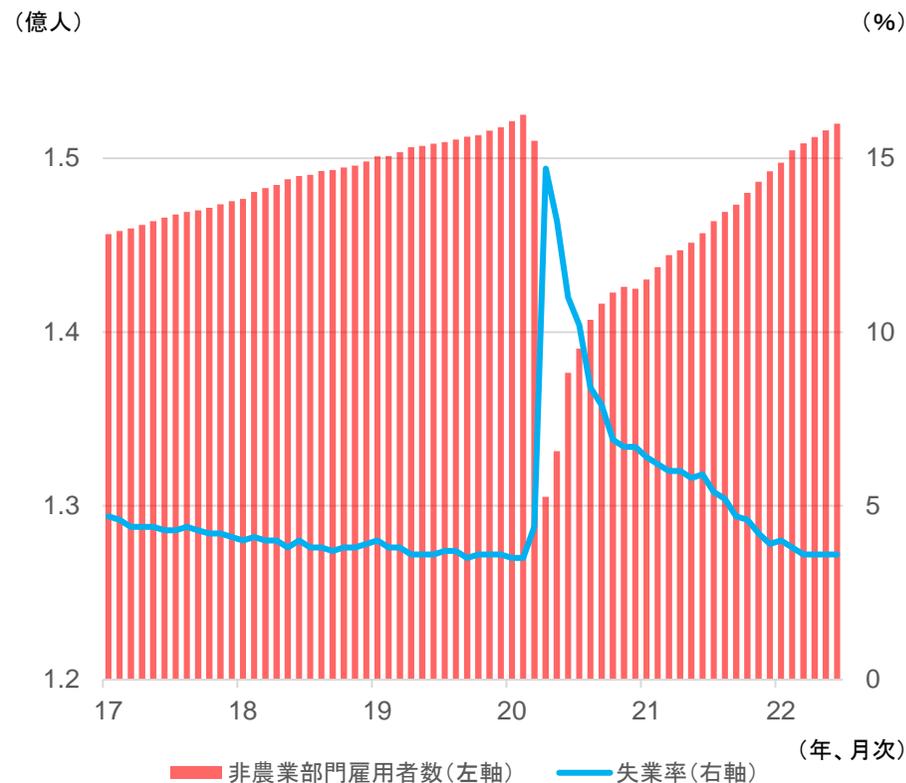
- 6月の鉱工業生産は前月比0.2%減少した。自動車・同部品が同1.2%減少し全体を押し下げた。一方、設備投資動向を示す6月のコア資本財出荷は同0.7%増と16ヶ月連続で増加した。
- 6月の非農業部門雇用者数は前月差37.2万人増加した。教育・医療(同9.6万人増)、専門サービス(同7.4万人増)などが雇用増をけん引した。失業率は3.6%と前月から横ばいとなり、4%程度とされる完全雇用水準を下回って推移した。

## 鉱工業生産



(出所)米FRB

## 雇用

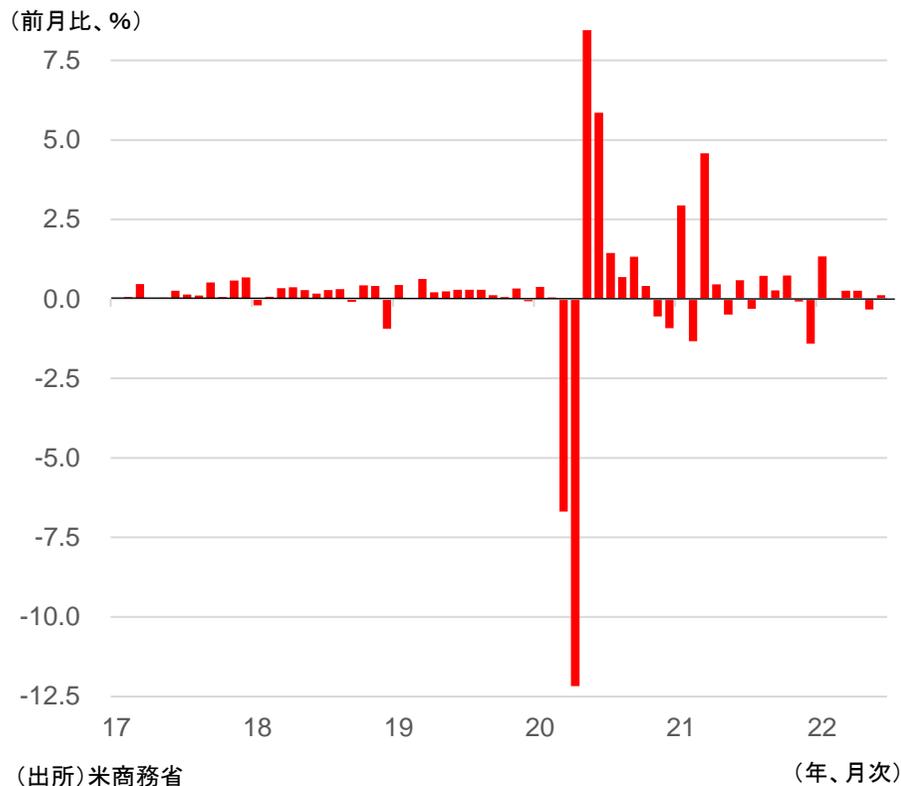


(出所)米労働省

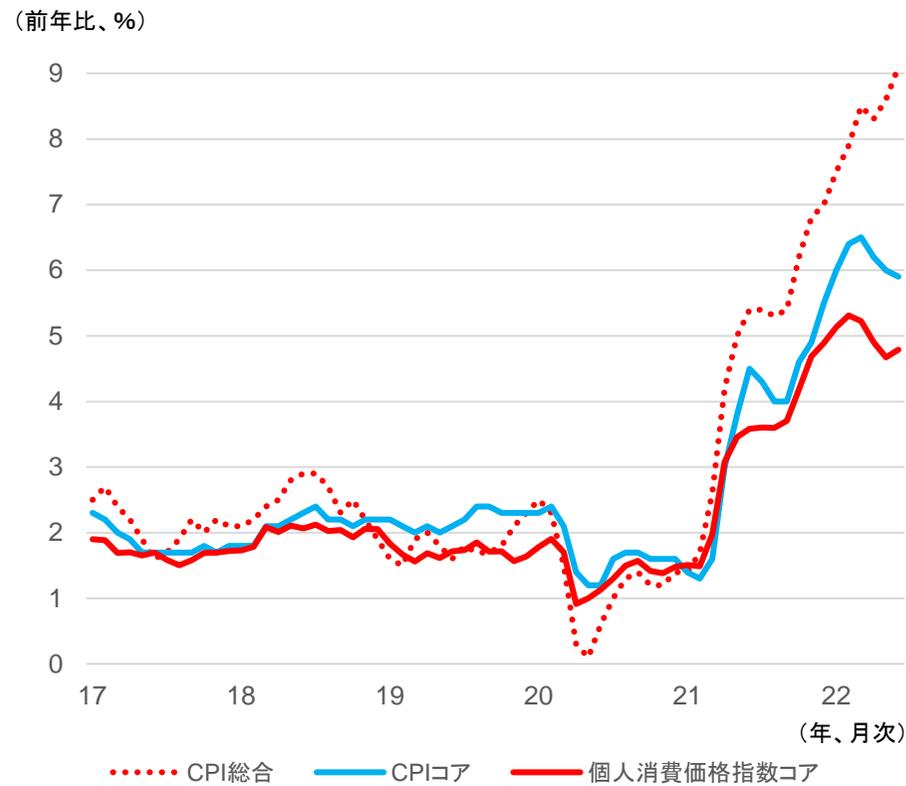
# 消費は横ばい、物価上昇率は依然として高水準

- 6月の実質個人消費は前月比0.1%増加した。自動車を中心に耐久財が0.9%増加したが、ガソリン等の非耐久財は5ヶ月連続で減少した。また、外食、旅行などのリベンジ消費が期待されるサービス消費も同0.1%の小幅な増加にとどまった。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、6月に前年比5.9%と3ヶ月連続で鈍化したが、依然として高い上昇率が続いた。FRBが重視する個人消費価格指数(同)上昇率は6月は同4.8%となり、5ヶ月ぶりに小幅ながら加速した。

## 実質個人消費



## 物価

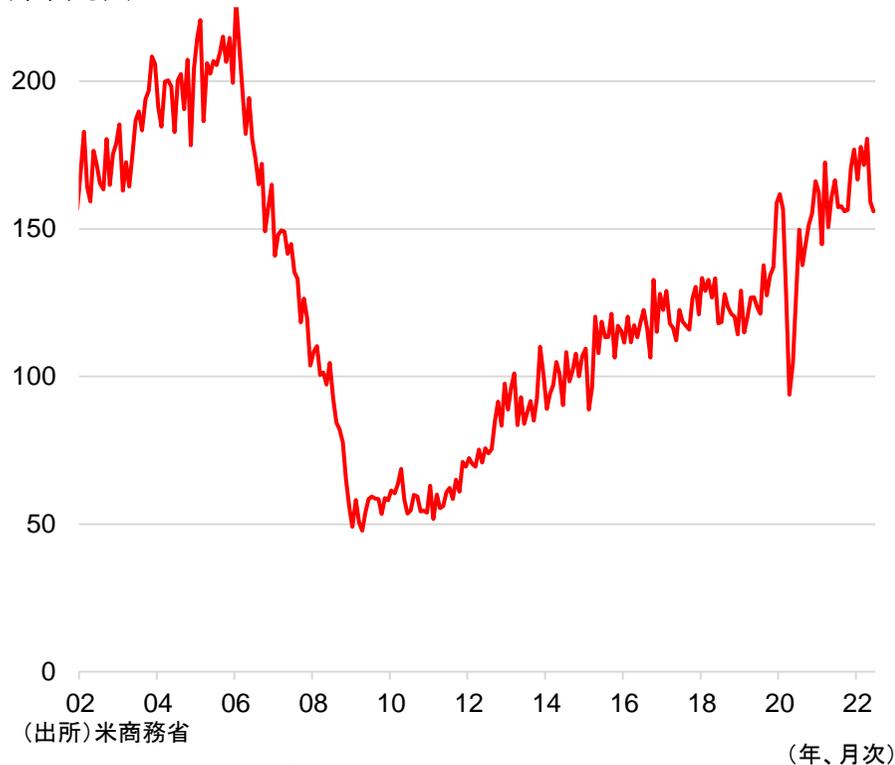


# 住宅着工は減少、価格はなお上昇も頭打ちの兆し

- 6月の住宅着工件数は年率156万戸と9ヶ月ぶりの水準に減少した。販売在庫が歴史的低位水準にあり、物件不足を背景に着工の増加基調が続いたが、住宅ローン金利の上昇により販売が減少し、着工増加にも一服の動きがみられる。
- 5月の住宅価格指数上昇率は前年比+19.8%と2ヶ月連続で鈍化した。上昇率の鈍化幅はわずかであるが、調査元では、住宅価格鈍化の兆しがあらわれたと評価している。

## 住宅着工件数

(年率、万戸)



## S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数

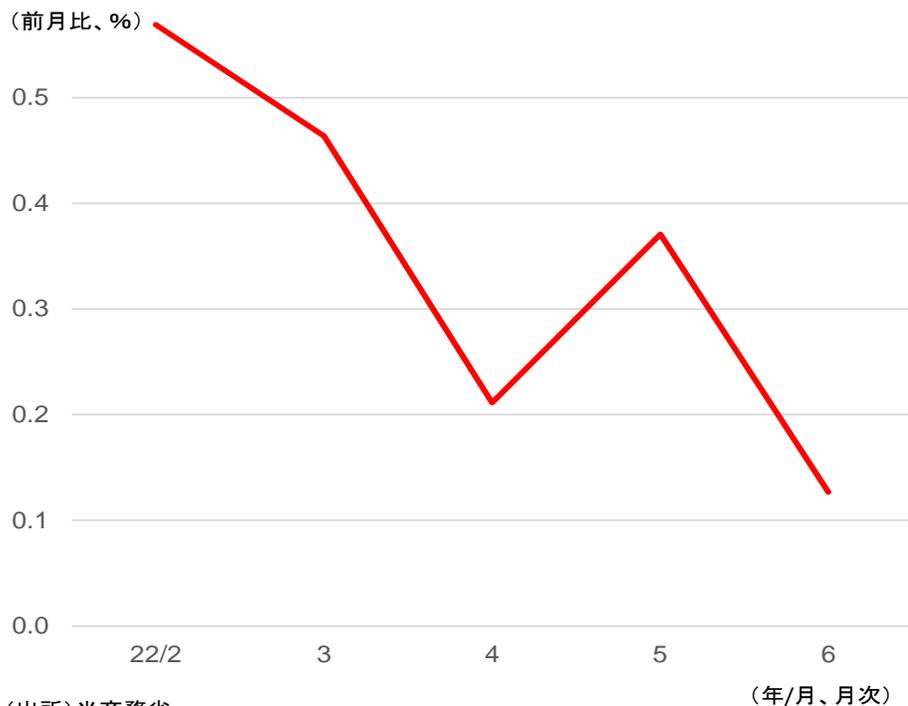
(前年比、%)



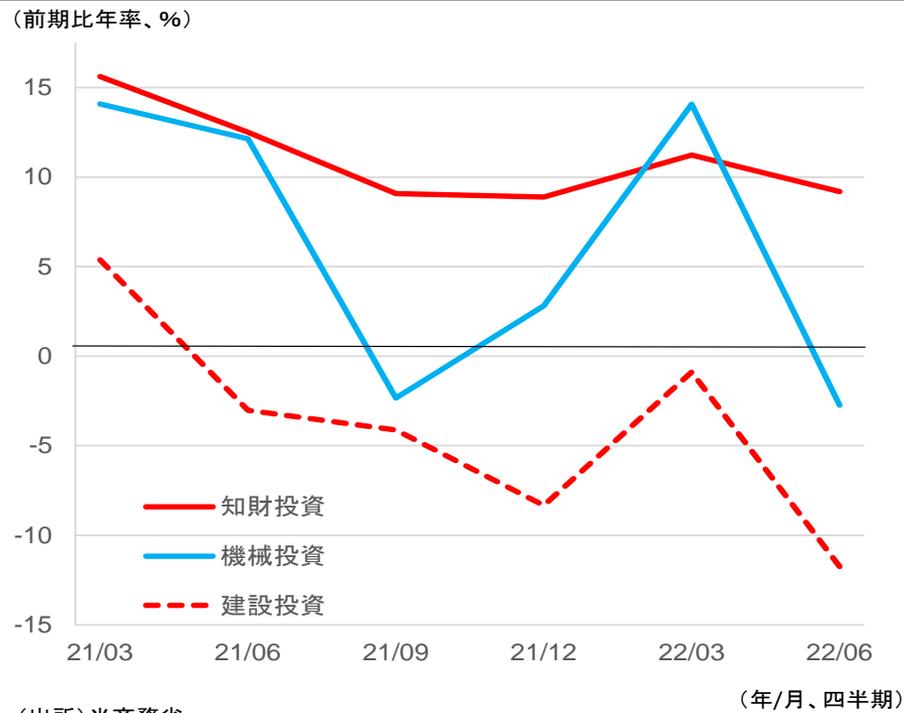
## 4～6月期の実質GDP

- 4～6月期の実質GDPは、内需が総じて低迷した。個人消費は、前期比年率1.0%増と、コロナ禍の2020年4～6月期以来の低成長にとどまった。また、設備投資は同0.1%減と、同じく2020年4～6月期以来の減少に転じた。さらに、住宅投資も同14.0%減と、2020年4～6月期以来の減少幅を記録した。
- 個人消費の内訳を月次で見ると、サービス消費は直近6月に前月比0.1%増と小幅な伸びにとどまっており、実質可処分所得が減少する中、リベンジ消費は期待されたほどには盛り上がっていない。一方、設備投資の内訳をみると、知財投資がソフトウェアを中心に高い伸びが続いた半面、建設投資の減少が続いたほか、機械投資も3四半期ぶりに小幅減少した。

### サービス消費の推移(月次)



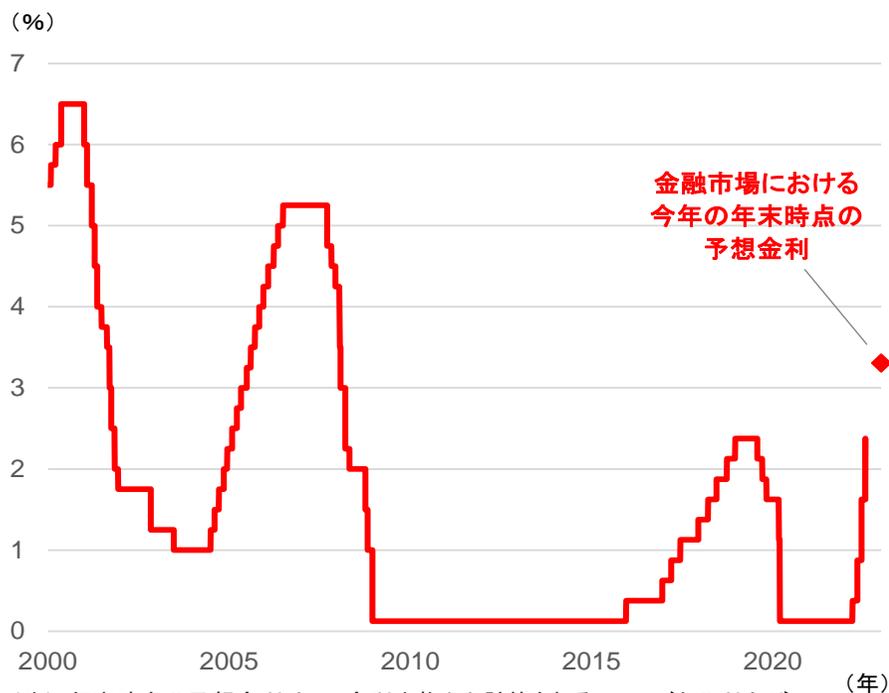
### 設備投資の内訳



# 金融政策：FRBは6月に続き0.75%の大幅利上げを実施。先行きは指標次第

- FRBは7月26日～27日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利であるFF金利の誘導目標を0.75%引き上げ2.25～2.5%とした。利上げは4会合連続、前回6月会合に続き、通常の3倍となる0.75%の大幅利上げを決めた。パウエル議長は会見で、今後の利上げペースは経済指標次第としつつ、利上げペースを緩めることが適切との認識を示した。
- 金利先物から算出される各FOMCの利上げ確率を加重平均した予想FF金利をみると、前回6月会合時点の市場予想と比べ、今後の利上げペースが当初考えられていたより落ち着くとの予想が顕著となり、また、2023年は利下げ予想が目立つようになった。今後の利上げペース予想が変化したことによって、米長期金利は低下し、為替相場は円高方向に反転した。

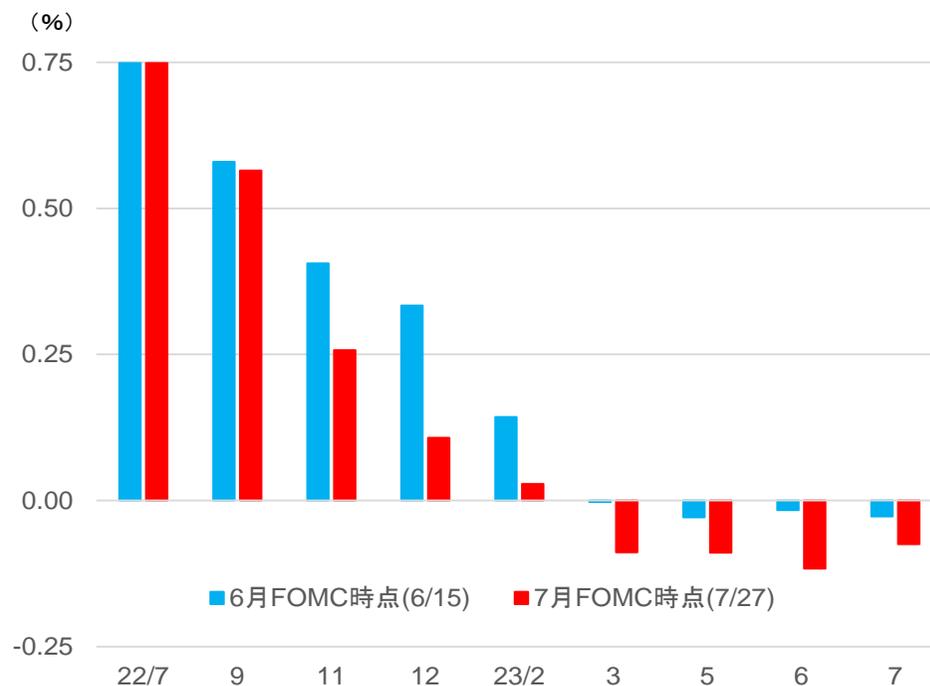
## 政策金利



(注) 年末時点の予想金利は、FF金利先物から計算されるFOMCごとの利上げ確率の加重平均値

(出所) FRB、シカゴマーカンタイル取引所

## 各FOMCの政策金利の予想変更幅（金融市場の見通し）



(注) FF金利先物から算出されるFOMCごとの利上げ確率の加重平均値  
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 細尾 TEL:03-6733-4925 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください